

平成25（2013）年度

第一回 吹田市立博物館協議会

議 事 録

日 時 平成25（2013）年 6月28日（金） 午後1時30分～午後4時30分

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 朝田・瀧川・由谷・一瀬・広瀬・村田・奥野・辻本・来間委員
（欠席 内田・西村・田中・上谷委員）

【1 開 会】 藤井副館長（出席状況の確認）

出席委員数は職務を委嘱している13名の過半数を超えています。

【2 挨拶】 中牧館長 挨拶

【3 新部長紹介】 藤井副館長

地域教育部部長の原田が1月1日づけで異動いたしまして、川下貴弘が着任いたしました。

【4 挨拶】 川下部長 挨拶

【5 新委員の紹介】 藤井副館長

P T A協議会の大元康江委員にかわりまして、内田 洋治委員が着任されました。

*職員異動【職員配置図（P2）参照】

光岡参事（文化財保護課庶務担当）が異動し、小山参事が着任（4月1日着任）

中村（博物館担当学校教育連携担当退職）が退職し、福田が着任しました。

【6 議長・副議長の選出】 議長は一瀬委員 副議長は朝田委員に

【7 案件（1）事業報告（平成24年度後半～）】

（議長）その前に傍聴者は。

（副館長）傍聴者はありません。

（議長）（1）の事業報告（平成24年度後半～）について事務局の方から説明を賜りたいと思います。

（副館長）資料のP3～観覧者の動向について説明。年度ごとの入館者数の推移は、開館以来、15,000人前後、あるいは10,000人前後で平成16年度ぐらいまで推移していましたが、平成18年度より本格的な市民参画展示に取組み、4年連続30,000人を越しました。22・23年度は

30,000人を割る結果となりましたが、昨年度は再び30,000人を越え、33,712人で、前年度より約7,000人増です。これは主に秋のニュータウン関連の展示や、それに伴う出張展示等が伸びた要因です。観覧者数も23年度に比べますと高校・大学生を除き、軒並み増加ということになっています。24年度の月別の観覧者数では、4月は600人ほど増えています。これは年度末からの「小松左京展」によるものです。8月以降は、プラスに転じています。これは夏の展示が観覧者、イベント参加者ともに大変増加し、秋はニュータウン関連の「ニュータウン半世紀展」が非常に好調で、ともに市民参画で数多くのイベント等やっていただいた結果の大幅な増です。1月以降は、2月が400人ほど減ですが、特別企画の観覧者が23年度には、2月に来られていたのが、1月に多く学校見学があったためです。3月の増は、「ニュータウン展」の出張展示によるもので、年間約7,000人の増です。

(事務局) 博物館のP7～P17に基づき事業報告。

(委員) 館外での内容とフィールドワークやワークショップは講座等受講者数の中に入れて良いのでしょうか。

(事務局) 講座等受講者数の中に入っております。

(委員) 出張展示と出前授業についてですが、外に打って出るとは、大変いいことだと思いますが、限られた人員の中で、どれだけ外に出て行けるのか。ニュータウン展の出張展示は大変好評であったということですが、今後、出張展示を増やしていく意向なのか、館蔵品を生かして外に出ていく可能性が今後あるのかどうか。出前授業をしてどれ程出前授業した学校が来ているのか。どういう授業をして、どういう形で呼び込もうとしているのか。より効果的に出前授業を来館者数のアップに結びつけるお考えがあるのかをお聞きしたいと思います。

(副館長) 「ニュータウン半世紀展」の出張展示は、展示の会場を千里ニュータウン情報館と共催という形で、展示の要望が市民の皆様からあり実施しました。出張展示を増やしていくのかという点は、できれば博物館の展示を充実させていき、それに関連して、様々なニーズや出張するに相応しいテーマが生じましたら、その時は積極的に外に打っていきたいと考えます。またJR岸辺駅が新しくなって、JR岸辺駅を博物館の玄関口に位置づけていけるよう、出張展示と言えるかどうかわかりませんが、アクセス表示等も含めて、博物館の紹介を展示資料も含めながら、設置していく構想を今持っています。出前授業は、小学校3年生向けの特別企画「むかしのくらしと学校」展に伴い、実施しています。講座室を真っ暗にして、行灯とかランプ等の「むかしのあかり」を実際に体験していただいておりますが、この「むかしのあかり」体験を学校に出張しても行っています。3年生以外でも、お米づくりを習う学年、5年生向けとして、お米づくりに関する道具を持参し、機械化される以前の農作業を実体験していただくこともやっています。出前は、博物館に来館していただけない学校に出張という形で対応しておりますが、出張したおかげでこんないいことをやっていただいて、こんないい資料があるんなら、計画変更して急遽来ていただけるようなケースも何校かあります。今後、出張・出前授業のプログラムを増やし、中学校、高校と幅広く展開していければと、考えております。

(委員) 今日、タクシーで来て、地元のタクシードライバーさんが、吹田市立博物館の位置がよくわかんなくて、地図を調べてやってきました。広報というのは、永遠のテーマでしょうが、何とかならないのかと考え、出前授業・出張展示について質問しました。出前授業は、授業を完璧に充実させてしまっただけで完結したら、博物館に来る必要が無くなってしまおうというジレンマがあると思いますが、出前授業が来館者に結びつくような形で工夫して、上手にリンクしてほしいと思います。

(議長) 出張と出前という新たな展開でうまく実施されていますが、手応えはどうでしょうか。どう対応したのか、出前は館に来れないところということですが、クラスをチョイスされているのか、総当りされているのですか。

(事務局) 「ニュータウン半世紀展」の出張展示の手応えとしましては、市民や民間組織ネットワークを活用することで、展示準備の段階で、情報や資料が集まってきたことと、開催中に来館者の中から様々な情報や資料も集まってきました。千里ニュータウンにあるニュータウン情報館で開催をすることで、住民の方々から情報が集まって来たり、様々な展開があり、別の事業に繋がっていますので良い効果をもたらしたと思います。寄託を受けているバスオールをNHKにお貸しするという展開に繋がって、先日、6月21日のNHK番組「突撃アットホーム」という新しい番組・総合番組に紹介される展開がございました。

(副館長) 出前授業には、制限というのは全くございません。全校に来ていただきたいと思っておりますが、遠方であるとか、近くに替わりうる様な施設があるということで、来れない学校も少しはございます。その場合、こちらから出向いて是非体験してくださいということで行っております。部屋の制限もありますが、児童数が多い学校だと、一日同じことを4回やって帰校することもあります。2クラスが一箇所にまとまってやる場合もあります。みなさん必ずここに来るか出前かどちらかで「むかしのくらしと学校」の教材に触れていただきたいと考えております。学校の都合で日が重複する場合は、学校側をお願いして日をずらしていただいたり、調整していただいております。

(議長) 基本的には、なんとしても総当りということ。

(副館長) 今のところどうしても困りますと言われるようなことはございません。

(議長) 先ほど中学生・高校生というお話が出ましたが、戦略的に中学校への働きかけはどのようになっていますか。

(委員) 学校と博物館の連携という視点から見ると、小学校と高校との博物館の連携は進んでいますが、中学校との連携は、職場体験ぐらいなので、昨年9月に館長さんが佐井寺中学校に来られまして、中・博連携を何とか深めていきたいというお話になり、本校の歴史担当教諭と方策を話し合い、「吹田の歴史にふれてみよう」というカラー刷りのパンフレットを博物館と連携して作成しました。中学校としては、歴史が1年生の後半から2年生にかけて、教科書で授業を進める中で、博物館と連携して、縄文時代・行基が歴史学習の中に出てきた時に、授業の中で吹田ではどうであったかと学習する時に使える内容といたしました。授業の中で、自分たちがくらしている岸部・佐井寺近辺の、その当時はどうだったかということで興味が向くように活用できたらと考えております。今度夏季休業中の2年生の課題として、博物館を訪問して、いろんな資料に触れさせていただいて、9月末の文化総合発表会で課題を展示し、場合によっては、博物館の特別展示室にも作品を飾っていただき、お話をいただき、小学校や高校との連携に負けないように進めていきたいと考えております。

(事務局) 学芸員全員で資料集を作成し、常設展示室の資料などを、提示させていただきました。デザインは、学校の方でしていただきまして、中身の文章は、今回は、佐井寺中学校ということで、佐井寺地域の歴史も盛り込み作成しました。佐井寺のページを替えれば市内の全中学校にも対応できると考えております。

(議長) 今年大分積み上げが出来てきて、来年度以降かなり展開する楽しみになってきた気がします。来年度以降の話に移りつつあるんですが、昨年度について、何かご意見がございましたら、よろしくお願いたします。

(委員)「ニュータウン展」、「むかしのくらしと学校展」、「大僧正行基展」と少ないメンバーの中で、充実した展示がなされたと感謝を申し上げます。「大僧正行基展」は、非常にフットワークのいい小回りの利いた、ワークショップなり、的確なイベントもされ充実していた実感があります。「むかしのくらしと学校展」は定着してきたというか益々充実してきたという感が否めません。この展示は子ども達が家に帰りまして、この「むかしのくらし」のこんな体験をしてきたよと、お家や近所の方々に話をする。家庭や地域でのコミュニケーションのネタになっていくと、広がりを持つ広報として大きなウエイトを持っていると思っています。行基展は、関連イベントによって、益々テーマに広がりとお深さを付け加え、市民の方々への関連が出て行き、イベントの広報効果というのが大きいかと思っております。「ニュータウン展」は、広がりが出た非常に的確なイベントだったと思っています。三事業とも充実し、博物館そのものが、益々内容が濃くなってきたというのが実感です。博物館は、文化財保護課の一施設ということですが、衛星都市の博物館として非常に充実してきていますので、課ではなく、もっと館を上位に置くことで、その機能を大きくしていくのではないかと思います。当館には西村コレクションという他所では羨望の目で見られているコレクションがあります。これを多くの市民のみなさん方を初めとして見ていただく、全国や世界の人々に見ていただきたいというのが私の希望です。そのためには収蔵庫、展示室等を充実させる必要があると思っています。作品を展示できるようなもの、館が誇ります文化財を少しでも多く市民の方々目に触れさすという、館の設備の充実をお願いできればと思います。そのためにも館の位置づけを高めることによって、予算が取りやすくなると思います。

(課長)組織ですけれども、博物館が開館した平成4年の当初は博物館という「課」でありました。その中に文化財保護担当があるという教育機関の中に文化財保護という行政もあるという二本の柱が連なっている組織が作られました。博物館の職員が、文化財保護行政にもタッチする組織構造であり、非常に負担がかかってくるだろうということがございました。その負担を除くために博物館は博物館法と吹田市立博物館条例に基づいて活動し、文化財保護に関しては、文化財保護法と吹田市文化財保護条例に基づいて、活動が出来るように平成23年度の組織改正の時に、教育の部門と行政の部門に仕分けをいたしました。「文化室」の中に「博物館課」と「文化財保護課」がある姿が「理想」であると思いますが、行政もスリム化をしなければならず、新しい「室」を作ることは難しい時代でもあります。予算につきましては、きちっとした形で予算を積み上げて、財政課に要求する中で予算がついてきます。文化財保護課の中に博物館があるからといって、博物館の予算にしわ寄せがくるということにはなっておりません。

(委員)スリム化という話がございましたが、貴重なものはやはり予算も付けていただかないとダメですし、貴重な予算ですから有効に予算を使えるというような形を組織の中で、生かして欲しいと思っております。博物館行政が今後も発展していくことを我々市民は望んでおります。

(議長)よろしく申し上げます。昨年の活動で、総合的に様々な取組みをされています。ワークショップも目立っているなと思われました。小学生3年生向けで、行灯の話が出ていましたが、かつて電気が日本に来る前に行灯や障子の光とかいう装置しかないので、江戸時代以前の展示をする時は、照明は横からでないダメなんじゃないかという話が一時的にあったのを思い出しました。行灯で見たような展示室もおもしろいなと思ったりしました。ワークショップ、体験とか出張展示等とかを通じて、博物館での展示にフィールドバックするようなことがどんどんあると良いなあと思いました。

(課長)西村公朝資料は、博物館に収蔵するべき資料だという認識をしています。財政的な問題もございまして、博物館の現状の中で収蔵できるようなスペースを生み出して、収蔵できないかと考えてい

ますが、実施計画という予算を上げる前にこういう事業で吹田市は取組んでいくんだというのを決める計画があるのですが、その計画に乗せてもらうことは今難しいという状況になっています。けれども全くその計画が無くなってしまったということではありません。もう暫くお待ちください。よろしくお願いいたします。

(委員) よくわかりました。一つ継続してお願いしておきます。

(議長) 収蔵は、議論に向かないかもしれませんが、よろしくお願いいたします。次の案件、平成25年度(2013年度)後期～26年度(2014年度)前期事業計画について事務局より説明をいただきます。

事務局より 以下説明

P18 平成25年度(2013年度)後期～26年度(2014年度)前期事業計画(案)

P19 特別展等展示中期計画(案)

P20 【教育普及事業】講演会・講座その他、北大阪ミュージアムネットワーク連携事業
研修事業など、学校教育との連携事業

P21 調査・研究、資料収集・管理、資料購入、資料保存・修理事業、出版事業、その他

P22 平成25年度(2013年度)夏季展示企画

P23 平成25年度(2013年度)第2回企画展示

P24 平成25年度(2013年度)秋季特別展

(議長) P24の「操車場開設90年を記念して」に関わって、是非今年の秋に岸辺駅の展示を獲得し確保してください。最悪ポスター展示でも実施可能だと思います。私のいの一の意見です。各委員で何かございませんでしょうか。

(委員) 秋季特別展「くらしと交通」と仮題になっていますが、名神高速が自動車交通の象徴、操車場が鉄道交通の象徴になれば、関連する事項は産業だと思います。吹田の産業の代表ビール製造。タイトルに産業を加えて、「くらしと交通と産業」というタイトルにできたらと思いますが、産業を入れれば内容により広がりがあるので、イベントが奥深くなると思います。広くくらしを捉えれば、くらしの中に産業が入り、わかり易くなると思います。

(事務局) 近代産業の発展や沿線開発、人々のくらしの変遷を紹介する予定ですので、産業も十分視野に入れ紹介したいと思っています。展示のタイトルは、ご意見をいただきましたので検討していきたいと思っています。高速道路と操車場をうまく、吹田の交通と絡めながら産業を付け加えて上手に、展示をしたいと思っています。

(事務局) JR岸辺駅に新しく南北自由通路が出来ました。博物館の玄関口ということで、博物館の広報や展示の要素を可能な限り入れていこうと動いています。

(議長) 可能というか絶対にもっていける案をそのためにやるような特展かなという感じもします。

(委員) JR岸辺駅での広報は、非常に大事なことです。阪急正雀駅でもやればどうでしょう。事業収入にもなるわけですから、お互いに鉄道事業者で競争もさせれば良いと思います。

(副館長) 正雀駅は、積極的にはPRしていませんが、検討したいと思っています。JR岸辺駅については、循環器病センターの移転が吹田市に決定したことで、市全体的に駅前のサイン計画を考えていきますが、それまで仮設のサインを設置するべく今、動いております。

(議長) 意外と正雀は近いです。駅での展示も試作品をまず作って、本番に備えていけば、本番が充実

した展示になると思います。アサヒビールの話なんですけど、ビール瓶を実際に運ぶ視点で交通を考える展示を取上げて、ラベルからビールの匂いがするというのはどうでしょうか。

(委員)「さわる展」ですが、昨年、常設展の資料を使って「さわる」ということを意識したギャラリートークをされました。様々な工夫をされ大変素晴らしい企画だったと思います。理想を言えば、「さわる展」の究極の目標は、企画展として「さわる展」をしなくても、常設展にその精神が入っていることだと思います。是非この企画は続けていただきたいと思っています。「さわる展」は、毎年続いて、ややともするとマンネリになる可能性が非常にあり、それを救う唯一にして最良の手段は、頭で勝負するしかないわけですから、イノベーションで毎年是非、館蔵品を使って何か「さわる」ことにこだわるということ、各学芸員の方に考えて、継続して欲しいです。どのように考えておられるのかお聞かせください。

(館長) 昨年、学芸員が各担当のコーナーで実際に資料にさわって、解説をする試みをしました。その結果、「アイグワ」と「オワリグワ」をさわるコーナーを常設展示場に設けることが出来ました。来館者は実際に手にとって、重さとかを確かめることが出来ます。こうしたことを重ねていけば、イノベーションになっていくと思います。ゆくゆくは、常設展示場を改編し、ガラス越しの資料と実際に自分の手にさわれる資料とをつき合わせることによって、理解を深めていくことにつながってほしいと思っています。「さわる展」は、その一つのきっかけでもあると思います。他の企画展とか特別展も常設展にうまく生かせるように、工夫を凝らしていきたいと思っています。

(議長) 本来、ガラスケースの前には、ガラスケースの中に入っている資料をポイント的にさわれるのが、普通の展示の状態ではないかと考えています。

(委員) 岡本太郎財団に行った時に、「作品はさわってもらもん」で仰々しくケースへ入れる展示の仕方はしてもらいたくない。さわってもらおうというのが太郎イズムだとおっしゃってたのが、印象に残っています。この博物館での「さわる展示」は、前館長が始めたんですね。博物館にあるのは触ってはあかんものばかりだと、これは思い切ったことだなあと、大きな進歩だと思います。先ほど鉄道の話が出たんですが、今年の秋は、吹田の図書館も浜屋敷もやるし、観光協会でもやるんです。鉄道から物を運んだりするのは人手が要るので、うまく調整をしていかなないと難しいかなと思います。操車場の中には、昔は人力で貨物を押していましたから、力自慢を競って、力石という大きなものがあります。あれを博物館に寄贈いただくか、貸してもらおうとかすれば、面白いと思います。鉄道は一千万人越えるファンがおりましてね、うまくPRできたらかなり人が来ると思います。どのように楽しんでもらえるか。いろいろ考えたらいいかと思います。ポスターも大事ですけども、マニアのサークルやネットもあるし雑誌も出しています。一部の雑誌は無料で載せてくれます。名神をどう取組むかですが、高速道路のジャンクションがあり、交通状況のアクセスのよさが吹田市の大きな売りですけども、これをうまくPRしたり、展示できたらいいなあとと思います。

(委員) 博物館は民博でも、大きな施設であれだけのいい作品があつて、先生方が揃っていても、人が入らないですね。美術館はどこでもすごいですよね。博物館では、奈良の「正倉院展」とか「阿修羅展」ぐらいで、博物館は、一杯に出来ないのが一番頭の痛いところだと思うんです。資料の展示の動員数の一覧表を見たら地域に関連したテーマ展示の動員数が多いですね。ニュータウン展を筆頭に中西家展もそうですし、気比家展も入ると思いますけど、地域の皆様の知っているものの展示やイベントに人がたくさん来ているじゃないでしょうか。地域の中の市民の関心があるようなものをテーマにして展示したらおもしろいんじゃないかと思っています。吹田市立博物館だけにしかないという先ほど西村公朝先生の話

は、日本全国に売り出すようなPRの仕方を考えたら、仏像ファンだけでも凄い数がありますから。いいんじゃないでしょうか。もう一つ出前展示で苦心なさっているみたいですが、地区公民館は、出し物に困っているんで、場所代はいらぬし、管理も行き届いているし、地域の方は絶えず来ますから、公民館を使う方法も考えられますね。ポスターですが、銀行は公的な団体がやるポスターは貼ってくれますから、商工会議所に言って、商工会議所から持って行かせます。

(議長) よろしくお願ひいたします。

(委員) 交通展の主題ですが、過去に強制買収で操車場が土地を取り上げたり、操車場内に遺跡があるとか、新しいものと古いものの関連が、どうなっているかというのがありますね。

(議長) いかがでしょうか。

(事務局) 操車場からJRだけでなく阪急やモノレールへと発展していますが、もともとは操車場ですので、操車場の出来る過程で、土地が取られたとか、操車場の歴史の中では吹田事件といった事件もありました。もちろん操車場が出来ると昔には遺跡があったことも、この博物館にも収蔵されている遺物もございますので、そういったことも含めて考えていきたいとは思ひます。

(議長) 旧日本道路公団とかが、高速道路を住民に説明するために、道路模型を作っていたり、豊中の模型屋さんが鉄道博物館に依頼され、シュミレーションした試作模型とかがあるようなので、活用して、盛りたくさんにすると楽しいかなと思ひます。

(委員) 前協議会委員の秋元さんやあの人のグループは、鉄道模型を実際に走行させるのに協力してくれると思ひます。

(事務局) 委員のみなさんのご関心が、非常に鉄道、交通にあるということがわかって、嬉しいところでございます。市民のみなさんも関心があると思ひますので、模型のことも含め、検討していききたいと思ひますが、日本NEXCO、NEXCO西日本の方に問い合わせをしていますが、NEXCO西日本の方には残念ながら、あまりないという回答を得ています。

(議長) 模型屋さんには、試作品とかはあると思ひます。地元自治会でもそのまま持っているというケースもあるかもしれません。

(議長) 次の(3)の案件に移ります。課題討論としまして、博物館の「平成24年度事業自己点検・評価について」です。博物館の「平成24年度事業自己点検・評価について」事務局の方に説明をいただきたいと思ひます。

(副館長) P25～P32に基づき説明。

(議長) 冒頭でも出ました収蔵庫とか資料の保存とか資料をそのまま壊さずに残しておくというのが、博物館の本来の使命だと思ひますが、その辺り文字数が自己点検の評価ですと、ものすごく少ないので、どうしても読む方向にいかないというか、博物館の事業の中でも見落としがちになってしまう事項になっていると思うので、自己達成度を事業計画の後ろに入れていただいて、5段階評価で数字を入れていただくと達成度が分かりやすいと思ひますが、如何でしょうか。お願ひいたします。

(副館長) どの程度の項目ごと、すべからくですか。

(議長) 事業計画の項目すべてに入れていただけると。

(副館長) 使命目標中長期計画は、内容がかなり重複しています。明確に博物館の仕事は分けられない。様々な部分で競合しながら成り立っていますので、別の所で評価してしまうと「空に」なる所もあります。そのことをご了解いただけたら対応可能と思ひます。

(議長) 同じチェック項目でも、自己点検の達成度に誤差があれば、その誤差は何故なんだろうと考え

るきっかけになると思います。

(委員) P 2 5の最初の1の①資料の収集で、自己点検結果で、収蔵資料総数が、歴史で14,444点とあります。それから24年度収集点数ということで歴史が250点です。③登録・整理のところですが、24年度登録点数歴史が18点、登録率が歴史だけでいいと98%、整理点数が歴史18点とこの辺の点数がよく分からないですね。③の方で言いますと、歴史で98%の登録率は、この館の総ての収蔵資料総数つまり14,444点のうちの今現段階では98%が登録させているという意味合いでしょうか。それとP15・P16で、寄贈資料の内訳と点数が書いてあります。この点数と先ほどの自己点検評価表の点数が一致せず、よく分からないのですが。

(副館長) P15と事業点検評価の数字の違いは、P15の数は前回の博物館協議会の開催日から6月21日までの数字で、自己点検評価は、24年度の評価ですので、24年4月1日～25年3月31日までの内容となります。

(事務局) 資料の収集①の資料収集の数字は、「ニュータウン半世紀展」に伴って、千里ニュータウン関係資料を多数収集し、24年度の収集資料点数の250点は大半が千里ニュータウン関連資料です。収集はされたんですが、非常に点数が多くてまだ未登録という事情で、登録率は98%になっています。

(事務局) P15の説明で補足をします。竹中家文書は、まだ登録手続きをされていません。寄贈を受けるために整理をしている状態ですので、登録の点数には入っていません。登録手続きのための整理をしているとお考えください。竹中家の資料点数が確定すれば、登録手続きを取ります。歴史資料はどうしても古文書の点数が多いため、整理が出来た時が、半分登録が可能になると思ってください。

(議長) 区別が出来るような工夫があると分かりやすいです。

(委員) P32をご覧ください。9.〈施設の整備・維持管理〉で、昨年あたりから、西村公朝コレクションで展示室が不足している。また展示室の展示装置等の整備も十分ではないとお話があったと思います。自己評価で、大いにお触れになって予算化を一日も早くお願いします。

(委員) P25以降の表の中で、自己点検結果と書いています。私自身は違和感を感じるのと、これはいわゆる現状把握であるわけなんですね。

(副館長) 点検項目に基づく結果を書き記しています。

(委員) 結果把握になるわけですね。そういう表現の方がいいんとかうかなあと。これではよくわからない。もう一つの次の自己評価と結果の内容がだぶっていることがあるんです。また自己評価のところでも、達成したところと検討すべき課題を二つに分けた方がいいと思います。文章を長くするよりも見る側にとって、達成したものと検討すべきものと分けて、表記した方がいいと思います。

(副館長) そのようにさせていただきます。

(議長) 最後にP19の特別展等展示中期計画(案)は各年度に総花的に様々な博物館活動をされていますが、年度ごとにテーマを決めた方が、各展示が毎年年間行事のように出てくる感じよりも、メリハリがあって、同じテーマでも毎年来たくなる工夫を中期計画の中で検討いただけたらと思います。

(委員) 「さわって楽しむ博物館 in すいた」は毎年同じテーマです。毎年同じことをするイメージを与えるので、サブタイトルで年度ごとの違いを出して欲しいと思いました。

(副館長) 24年度の評価を協議会から頂戴することになります。昨年は、評価項目を委員の皆様方に各々分担をしていただき、ご出筆いただいたものを第2回の協議会までに頂戴して、事務局で取りまとめ、再度協議会で議論いただいて、最終的にとりまとめていただきました。今年も同じ手順で良いか、方法を変えた方が良いのか、お決めいただけたらと思います。

(議長) 昨年度と同じように分担させていただくか、分担はやっぱりだめだとかいう、二者択一でよろしいですかね。

(委員) 昨年の分担方式で良いと思います。分担以外に書きたい希望のある方は、当然書かれるということで、昨年も書いてもよかったと思います。

(議長) 基本的には昨年方式で大丈夫でしょうか。

(委員) 自分たち学芸員がやったことは自分たちで公正に評価した方が良い。5段階の自己達成度を委員の中で検討する程度のことをやる方が良いと思います。

(副館長) 平成22年度に使命目標中長期計画点検評価を、協議会から答申をいただいた時に評価とは、本来外部評価であり、内部評価も評価の一つですが、そこで留まるのではなく、将来的には外部評価に踏み込んでいくとなりました。また、博物館協議会は、内部なのか外部なのか議論があったように思います。事務局側は、協議会はやや内部側ではないかという考えを持っていましたが、協議会の皆様方の中では、外部の有識者が、集まっている組織だから外部でもいけるんじゃないか。最終的には、博物館協議会から当面は外部評価をいただくと答申を受けておりますので、皆様方からの評価を頂きたい。

(議長) 評価しないというのも一定の評価なのでいいかなあと私は思ったりします。基本的には担当の部分は、極力確実に、担当以外にも評価する項目は入れていただき、集約するのは、事務局としては対応可能なんでしょうか。

(副館長) ご希望があれば私はこの部分をやりますとおっしゃっていただきましたら、そういたしますし、分担させていただいたところは必ずご記入をお願いします。それ以外の部分でも評価すべき部分があれば、是非評価して下さるようお願いしたいと思います。評価していただいたものは事務局が整理させていただきます。

(委員) 専門の方が一生懸命やったことに点なんかつけられない。みんな苦勞してやった結果だったらいいです。感想ぐらいは言いますが。評価して点つけるなんて、ちょっとね。

(議長) 博物館の内か外かという議論があったと思います。協議会委員は外に向けて、博物館はきちんとやっているぞという話をしないといけないと思います。

(委員) それは全体としてよくやってるぞということで、ここに対してここはいいよという言い方はしませんよね。

(議長) いいだけの評価じゃないと思います。

(委員) ここの収集はどうのとか。展示はどうのとか。

(議長) 博物館外の人のダメだぞ。という代弁者にも委員はならないといけないと思います。

(委員) それはわかります。ただ個々の中身のことを結局外部に言うことはあまりないわけで。全体としては、博物館の学芸員の人是一生懸命がんばってやっているからいいよということは言うでしょうけどね。展示の点数が少ないからがんばらなあかんとか、そんな個々のことはあんまり言わないでしょう。

(副館長) それが事実であれば忌憚なくおっしゃっていただいたら結構かと思えます。年2回の協議会にご出席いただいて、全体が掴み難いというご指摘も以前から頂いております。それも事実かと思えますが、そのためにも不完全ながらこちらの自己評価というものも書かせて頂いておりますので、これをお読み頂いて参考にして、評価していただきたいと思えます。内部評価で済ましては、評価にならないのが、昨今の考えです。ご理解をいただきたいと思えます。お願いいたします。

(委員) 博物館の中の評価だけでなく、その評価を外部の人に対してアピールするということですね。

(副館長) 閉じた博物館の中だけでの議論ではなく、インターネットや館報等で公表しておりますので、

あらゆる人が評価を見るチャンスがあります。内部の職員だけの評価ではなく、外部の評価がいただきたいと思います。

(課長) この自己点検については、平成15年6月6日に文部科学省の告示の第113号で「公立博物館設置及び運営上の望ましい基準」が出されております。その12条で博物館の事業の水準の向上を図るために自己点検を実施せよと。それについては、博物館協議会等の協力を得つつ、自己点検を行えと指針が示されております。我々としては、博物館協議会の中で、点検をしていただくことが、最低外部に対して言えることであるという気がします。是非何らかのご意見を頂戴するという形はとっていただきたいと思います。

(議長) 博物館の業務は非常に多様で、ニーズも多様だと思うので、その多様なニーズによるところのアンケート結果が、すごく参考になります。アンケートには、否定的コメントや肯定的コメントを入れていただいているので、両論、両コメントを読んで、これを参考にして私は評価させていただいています。肯定的コメントに引っ付き過ぎると内部にとっぴり浸かってしまいますし、否定的コメントにとっぴり浸かってしまいますと博物館の業務が成り立たなくなるかもしれないので、両方見て、活動事業や情報も入れていただいているので、それを考えた上で評価いただけると嬉かと思えます。その結果に異議なしということであれば、無表記でということよろしいでしょう。アンケートの否定的、肯定的というのは非常に参考になるので、今後とも詳細によりしくお願いいたします。そういうような流れで進めたいと思いますのでよろしいですか。

(議長) 極力次回からも利用者のコメント第三者評価みたいなものもこの中に盛り込んでいただくと判断もしやすくなります。

(副館長) アンケート評価のまとめですか。

(議長) アンケートに限らず、インタビュー、館内、アウトリーチに行ったときの行動の所見などがあると、判断し易いと思いますので。コメント自身が片側に寄っている気もありますので。多様性を出していただくとありがたいと思います。

(議長) 30分延長になってしまいましたが、議事の方は終わらせていただきます。